

地質調査研究報告投稿・執筆手引 (マニュアル)

地質調査研究報告編集委員会

制定 平成 28 年 11 月 8 日

(趣旨)

第 1 条 本マニュアルは地質調査研究報告への投稿・執筆の手引として定めるものである。

(投稿の手続)

第 2 条 投稿者は、所定の様式の受付票（別紙様式 1）を添えて地質調査研究報告編集委員会が指定する形式の電子ファイルとプリントした原稿 2 部を事務局（地質情報基盤センター出版室）に提出する。なお、オリジナルの原稿と電子ファイルは著者が保管する。

(最終原稿の提出手続)

第 3 条 査読結果に基づいて修正された原稿を印刷し、電子ファイルと共に事務局へ提出する。

(原稿の構成と形式)

第 4 条 原稿は和文または英文とし、そのカテゴリに応じて別表-1 の構成とする。

(原稿の体裁)

- 第 5 条 プリント原稿の書式は A4 判縦用紙に横書きとし、次の基準に従うものとする。
- 一 和文の場合は、文字サイズ 10 ポイント・30 行／頁程度とし、上下左の余白は 3cm、右余白を 5cm 程度確保する。
 - 二 英文の場合は、文字サイズ 12 ポイント・25 行／頁程度とし、上下左の余白は 3cm、右余白を 5cm 程度確保する。ワードラップを行い、改行は単語の区切りでのみ行う。
 - 三 装飾文字は原則としてそのままプリントするが、正しくプリントできない場合はプリント原稿に赤で必要な指定を記入する。
- 2 受理後の最終原稿では、特殊文字・外字・上付き及び下付き文字、ならびに字体などの指定を、本文プリントアウト原稿に赤で指定する。
- 一 生物・化石のラテン語学名や数式中の変数名などのイタリック字体……………1 本の
下線
 - 二 ゴシック（日本語）・ボールド（外国語）などの太字体……………波形の下線

- 三 上付き文字・下付き文字……V・Λの指定
- 3 複雑な数式などの場合は、これに代わる分かり易い方法で指定してもよい。また、図表挿入位置は、受理後に提出する本文プリントアウト原稿の右余白に指定する。

(構成要素ごとの執筆要領)

第6条 タイトルページ

- 一 表題：簡潔でかつ論文の内容を十分に表現するものとする。
- 二 柱：和文30字相当以内で表題を簡略化したものとする。
- 三 著者名：日本語表記は姓名の順、英語表記は名姓の順とし、名は略さず表記する。英語表記では名と姓の頭文字のみを大文字とする。連名の場合、日本語では間を「・」（中黒）で、英語では「,」（カンマ）と and で繋ぐ。
(英語連名表記の例) Shunso Ishihara, Carl R. Anhaeusser and Laurence J. Rob
- 四 所属：著者名の右肩にアラビア数字を付け、脚注として記入する。所外の著者の場合には勤務先及び所在地を、元所員が在職中の研究成果を投稿する場合は、その研究時の所属部門等と現勤務先及び所在地を併記する。所員の所属の英文表記については、AIST, Geological Survey of Japan, ユニット名等の順とする。和文原稿の著者の所属等については以下の例を参考にして作成する。
 - 1 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地圏資源環境研究部門 (AIST, Geological Survey of Japan, Research Institute for Geo-Resources and Environment)
 - 2 波崎第一中学校 (Hazaki First Junior High School, Hazaki, Kamisu, Ibaraki, 314-0408 Japan)
 - 3 日本学術振興会特別研究員, 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報研究部門 (JSPS Research Fellow, AIST, Geological Survey of Japan, Research Institute of Geology and Geoinformation)
- 五 キーワード：英語の単語又は一般化した短い語句から3-10個を選定してタイトルページに記載する。キーワードの名詞は原則として単数形を用い、名詞を伴わない形容詞（形）や前置詞の使用はさける。
(例)
 - 1) 対象物：rare metal, acid rain, Hishikari Mine, Nohi Rhyolite
 - 2) 作用・機能・現象・概念：greenhouse effect, gold mineralization, secondary enrichment zone
 - 3) 学問分野・手法：geochronology, paleontology, economic geology, K-Ar dating, EPMA, computer simulation
 - 4) 地域：Akita Prefecture, East China Sea, Northeast Pacific, California
 - 5) 地質時代：Holocene, Neogene, Proterozoic, Precambrian
- 六 コレスポンディングオーサー：該当者の右肩にアスタリスクをつけ、脚注とし

て記入する。記入例は以下のとおり。

(例) 所内

*Corresponding author: A. BBBB, Central7, 1-1-1 Higashi, Tsukuba, Ibaraki 305-8567, Japan. Email: aaaaa@aist.go.jp

所外 (勤務先所在地については, 所属で表記しているため省略)

*Corresponding author: A. BBBB, Email: aaaaa@oooo.oo.jp

- 2 要旨: 各々の記事内容のエッセンスを要領よくまとめて記載する。「〇〇について研究した。」などの記述は行わない。和文要旨は 400 字以内, 英文要旨は 300 語以内が望ましい。ただし, 論文等の本体が大規模なものである場合は, この限りではない。
- 3 本文 (本文以外に関する一般則を含む)
 - 一 和文原稿は, 句読点, 引用符, その他の記号も含め, 全角文字を使用する。漢字まじり平仮名書き現代仮名使いによる。漢字は常用漢字表に従う。ただし, 固有名詞や広く用いられている学術用語はこの限りでない。送り仮名は, 同一原稿内では統一する。句点には「.」, 読点には「,」を用い, 同格名詞の並記には「・」(中黒)を用いる。アルファベットは半角を用いる。
 - 二 英文原稿は, カンマ「,」, ピリオド「.」, 疑問符「?」, 引用符「'」"」, その他の記号も含め, 半角文字を使用する。文頭の頭文字は大文字とし, それ以外はすべて小文字とする。
 - 三 数字は, 数量を表す際には原則としてアラビア数字とし, 半角文字を使用する。
 - 四 単位は原則として SI (国際単位系) を使用する。
 - 五 緯度・経度の表記は, 世界測地系に基づいた数値で行う。但し, 必要があつて東京測地系 (平成 14 年 4 月施行の測量法改正の前の日本測地系) での数値を示す場合は, その旨を明記する。なお, 分単位未満の桁を表示しない概数値を示す場合は, この限りではない。
 - 六 外国語 (ローマ字) 表記の人名は, 頭文字のみを大文字とし, 第二字以後は小文字を使用する。
 - 七 見出しは, ポイントシステムによる。見出しの数字は原則として 3 字までとする。

(例)

 1. はじめに
 2. 地形
 - 2.1 丘陵・台地

2.1.1 多摩川左岸

2.1.2 多摩川右岸

…

(文献の引用)

第7条 文中での文献の引用は、著者名と年号の併記で示す。日本語の場合、著者が2名の際には姓を「・」で繋ぎ、3名以上の際には筆頭著者の姓の後に「ほか」を付ける。外国語（ローマ字）の場合、著者が2名の際には姓を「and」で繋ぎ、3名以上の際には筆頭著者の姓の後に「*et al.*」（イタリック指定）を付ける。姓と年号から引用文献の識別ができない場合は、年号の後に小文字のアルファベットを付けて区別する。単行本などを引用した場合には、できるだけ引用箇所
のページも明記する。また著者名が紛らわしい場合は、姓名を完記する。

(例)

関(2001)によれば、会津盆地南西方の山地には先第三系の堆積岩が……

倉本・中尾(2002)はこのような報告をしている。

これらの研究(角井ほか,1998; 藤岡,1985a, b)によると……

Baumgartner, ed. (1995, p.347-421)に示されたとおり……

Shibata and Nozawa (1967)の年代値は……

……と考えられるようになった(Pessagno *et al.*, 1977).

高橋雅紀(1997)の考えに対して高橋正樹(1998)は反論した。

2 脚注は、著者の所属以外には原則として使用しない。

3 引用文献

一 引用文献は、本文の最後に「文献」（英文の場合は「References」）として著者名
のアルファベット順に記す。筆頭著者が同じ場合は、本項第二号に定めた規則により並べる。

二 筆頭著者が同じ論文は、単著論文、2名共著論文、3名以上の共著論文の順に並べる。
単著論文は発表年順、2名共著論文は第2著者のアルファベット順を優先した上で発表年順に並べ、3名以上の共著論文は筆頭以外の著者名に関らず筆頭著者ごとの発表年順とする。〔3名以上の文献を本文中で引用する場合、「(Pessagno *et al.*, 1977)」、「高橋ほか(1997)」などの形で表現し、第2著者以降の名前が隠れてしまうため。〕

三 外国語（ローマ字）表記では、雑誌名及び単行本のタイトルはイタリック、巻は
ボード表記とし、それ以外はローマン表記とする。

四 公的機関のウェブサイト引用する場合は、「地質調査所(2011)ウェブサイトタイトル、
<http://www.gsj.go.jp>（参照日日付け）」などの形で表現する。

(例)

- 秋山雅彦 (1994) 炭素の地球化学的サイクルと大気・海洋の起源. 地球科学, **48**, 279-283.
- 秋山雅彦 (1995) よみがえる分子化石ー有機地質学への招待. 共立出版, 東京, 120p.
- 秋山雅彦・下山 晃 (1988) アミノ酸のラセミ化による年代測定. 地質学論集, no. 29, 129-142.
- 秋山雅彦・氏家良博 (1976) イソロイシンのラセミ化と地質学への応用 (その2) ー関東地方の更新世化石を例としてー. 地球科学, **30**, 186-190.
- Akiyama, M., Shimoyama, A. and Ponnampertuma, C. (1982) Amino acids from the late Precambrian Thule Group, Greenland. *Origins of Life*, **12**, 215-227.
- 小松正幸・小山内康人・豊島剛志 (1989a) 日高変成帯の温度ー圧力ー変形史. 月刊地球, **11**, 239-244.
- Komatsu, M., Osanai, Y., Toyoshima, T. and Miyashita, S. (1989b) Evolution of the Hidaka metamorphic belt, northern Japan. In Daly, J. S., Cliff, R. A., and Yardley, B. W. D., eds., *Evolution of Metamorphic Belts*, Geol. Soc. Spec. Publ., no. 43, 487-493.
- 松島信幸 (1973) 赤石山地の中央構造線. 杉山隆二編, 中央構造線, 東海大学出版会, 東京, 9-27.
- Mitchum, R. M. Jr. (1977) Seismic stratigraphy and global changes of sea level, part 11: Glossary of terms used in seismic stratigraphy. In Payton, C. E., ed., *Seismic Stratigraphy ーapplication to hydrocarbon exploration*, Amer. Assoc. Petrol. Geol. Mem., no. 26, 205-212.
- 水収支研究グループ編 (1993) 地下水資源・環境論ーその理論と実践ー. 共立出版, 東京, 350p.
- 中野 俊・大塚 勉・足立 守・原山 智・吉岡敏和 (1995) 5 万分の 1 地質図幅「乗鞍岳」, 地質調査所.
- Nakano, S., Otsuka, T., Adachi, M., Harayama, S. and Yoshioka, T. (1995) *Geological Sheet Map 1:50,000 "Norikuradake"*, Geol. Surv. Japan.
- 中野 俊・大塚 勉・足立 守・原山 智・吉岡敏和 (1995) 乗鞍岳地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 地質調査所, 139p.
- Nakano, S., Otsuka, T., Adachi, M., Harayama, S. and Yoshioka, T. (1995) *Geology of the Norikuradake district*. With Geological Sheet Map at 1:50,000, Geol. Surv. Japan. 139p. (in Japanese with English abstract 4p.).
- 中江 訓・小松原琢 (2002) 西津地域の地質, I.地形. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 産総研地質調査総合センター, 1-6.
- Nakae, S. and Komatsubara, T. (2002) *Geology of the Nishizu district, I. Topography*. Quadrangle Series, 1:50,000, Geol. Surv. Japan, AIST, 1-6 (in Japanese).

小川琢治 (1944) 日本群島. 弘文堂, 東京, 372p.

Reading, H. G., ed. (1986) *Sedimentary Environments and Facies*. 2nd ed., Blackwell Sci. Publ., Oxford, 615p.

曾屋龍典 (1971) 秋田駒ガ岳 1970 年の噴火と岩石. 地調月報, **22**, 647-653.

渡辺真人 (1990) 富山県氷見・灘浦地域の新第三系の層序—とくに姿累層とその上位層との間の時間間隙について—. 地質雑, **96**, 915-936.

内野隆之 (2010) 新潟県加茂地域 (蒲原山地西部) に分布する足尾帯前期ジュラ紀付加コンプレックスの地質図と岩相. 地質調査研究報告. **61**, 365-381.

Ohta, E. (1980) Mineralization of Izumo and Sorachi veins of the Toyoha mine, Hokkaido, Japan. *Bull. Geol. Surv. Japan*, **31**, 585-597 (in Japanese with English abstract).

地質調査所 (2011) ウェブサイトタイトル, <http://www.gsj.go.jp> (参照日日付け)

地質調査所 (2011) 論文タイトル. 出版物タイトル, 100, 5-25. doi : 10.7890/A12345.6.

(図・表及び図版)

第 8 条 口絵以外の原稿の図・写真・表の類を次の 3 種類に分け, それぞれ番号をつける. なお, 図表中の文字はローマ字・英文表記が望ましい. また, 原則として折り込みの図表等は採用しない.

一 図 (Fig.) : 本文中に入れる図と写真.

二 表 (Table) : 本文中に入れる記号・文字・罫のみからなるもの.

三 図版 (Plate) : 独立のページとして高解像度で印刷する写真.

四 完成原稿編集時に縮小してもよいように, 文字・記号・線などの大きさと調和に留意すること.

五 図・表の原稿は 1 図ごと, 1 表ごとに別の用紙または別ファイルを使用すること.

六 図・表・図版をプリントした原稿には, 1 枚ごとに鉛筆で著者名, 図・表・図版の番号を略記する. 同じく鉛筆で横置き指定や縮率の希望を記入することができる.

七 図の内容の大きさを示すには, 何分の 1 としないで, スケールを図中に書く.

八 位置図・地質図などには原則として緯度・経度を入れる. 緯度・経度を入れることができない場合には, 方位を記入する

九 地名及び図名のローマ字表記は, 修正ヘボン式を用いる. ただし, 長音記号は使用しない. また, はねる音 (撥音) 「ん」はすべて「n」を用いる. 分かち書きは国土地理院の表記法に従う. 海底地形は, 海上保安庁の表記法に従う. ただし, 地層名等, 原記載の表記に従う必要がある場合はこの限りではない.

十 著作物あるいは著作物中の図を転載 (一部改変も含む) する場合は, あらかじめ許諾を得て出典を明記する (許諾が必要でない場合を除く).

(図・表・図版説明文)

第9条 図・表・図版の説明文(Caption)は、それぞれ別グループとし、番号順に並べる。番号表記は第1図(Fig. 1)、第1表(Table 1)、図版1(Plate 1)とする。和文論文では和英併記とする。

(難読・重要地名等)

第10条 原稿の末尾に、難読・重要な地名等のローマ字漢字対応表をつけることができる。

(例) Azae 砦部 Mikado 神門 Nagamiyama 魚神山
Susai 周匝 Toyoma 登米 Yunotsu 温泉津

(著作権)

第11条 本誌に掲載された論文・記事等の著作権は、産業技術総合研究所に帰属する。

(マニュアルの改廃)

第12条 このマニュアルを改廃した場合は、地質調査総合センター運営会議にて報告するものとする。

別表-1 地質調査研究報告原稿の構成と形式

○:必要 △:必要に応じ -:不要

カテゴリー (*1)	その内容 (「地質調査研究報告の編集について」(13 地 調連覚書第 4 号)で規定)	タイトルページ			要旨 (英 文及び和 文)	本 文	引用文献	図 (本文 中の写真 を含む)・ 表・図版	図・表・図 版の説明 (*6)
		表題・著者 名・所属(以 上はすべて 和英併記)	キーワード (英)	柱 (上部欄 外の見出し)					
(1) 口絵 Frontispiece	写真や図及びその解説文で構成される独立 の報告.	○	-	-	-	△	△	○	○
(2) 論文 Articles	通常の学会誌で原著論文として取扱われる 類の記事. 頁数の制限を特に設けないので 比較的豊富なデータや多量の図表を含むも のも掲載できる.	○	○	○	○	○	○	○	○
(3) 概報 Reports	論文に準じて, 記載や暫定的あるいは予察 的解釈を中心とする記事.	○	○	○	○	○	○	○	○
(4) 総説 Reviews	特定のテーマに関して既存論文を体系的に 紹介するもの. (*2)	○	○	○	○	○	○	○	○
(5) 短報 (*3) Short Articles	速報性のある短い論文.	○	○	○	○	○	○	○	○
(6) 資料・解説 Notes and Comments	各種データの紹介, 時宜を得た用語(専門的 な学術用語, 国際的な共同研究課題, 国際 的な機関, 及びそれらの略称など)の解説な ど.	○	○	○	○	○	○	○	○
(7) 講演要旨 (*4) Abstracts	研究発表会, 研究講演会等の講演要旨. た だし, プログラム(ちらし)に掲載されたもの ではなく, 報告掲載用に作成したもの.	○	○ (3-5 個)	○ (*7)	-	-	-	-	-
(8) 研究紹介 (*5) Research News	研究課題の開始年度, 中間年度及び終了年 度における進捗状況等(開始年度について は計画の紹介).	○	○	○	○	○	○	○	○

*1 本表のカテゴリーに類さない記事を掲載する必要がある場合には, 地質調査研究報告編集委員会にて対応を決定する.

*2 ただし, 既存の考え方に対する批評や将来の研究方向等についての著者の見解を含まないものは, 原稿の規模に関わらず, “資料・解説”とする.

*3 完成原稿で原則 4 頁以内. 1 頁は本文で 2,250 字に相当.

*4 和文 800 字以内, または英文 350 語以内.

*5 完成原稿で 2-4 頁.

*6 本文が和文の時は和英併記.

*7 研究発表会、研究講演会の名称を使うこと.